



琴を教え続けて半世紀

清家 昭子 さん(米湊)

美しい心が  
美しい音色になって  
あらわれる

米湊に住む清家昭子さんは、半世紀以上、琴の先生として、多くの人に琴の素晴らしさを教え続けてきました。今まで教えた生徒さんは数百人にもなります。

雅号は「菊美江」。当道音楽会菊筋の流派に所属し、出身の宇和島市やその周辺、伊予市などで、83歳になる今も琴の指導にあたっています。

清家さんは、父が尺八とクラリネット、叔父が尺八とヴァイオリン、祖母が琴…と、芸能を愛する一家に生まれました。物心ついた頃には、祖母の古い琴を弾き始め、最初は祖母の友人に教わりました。

「絹糸を使った弦で、先生と向かい合って、楽譜もなく、先生の手をまねて覚えました。」

そのうちに始まった戦争で、琴を弾くことができず、また再開したときには、弦がナイロンになり、楽譜も普及していました。

「忙しい父に代わって、叔父と一緒に合奏してくれました。その叔父のおかげで、合奏の妙味を知ったんです。」

琴は単独で演奏されるだけでなく、演奏会などでは、歌や尺八と一緒にすることがよくあります。

「琴の音色がとても好きなんです。美しい音色を出すためには、自分が怒っていたりイライラしていたりしてはいけません。心をきれいにし

ていれば、自分自身が清まり、美しい心が美しい音色になってあらわれます。」

結婚して住み始めた伊予市で、琴の教室や演奏会を開き、フランスやイタリアなどの海外でも活躍しました。

今年5月には、今までの愛媛県の文化への貢献から、愛媛県文化協会地域文化功労賞を受賞しました。

「好きだからこそ、これまで続けて来られました。体の衰えもありますが、これからも元気にずっと琴を続けて行きたいと思っています。」

